

令和3年2月26日

令和2年度 学校評価の概要

都立南多摩中等教育学校
学校運営連絡協議会
評価委員会

分析

【生徒、保護者、教員の選択回答から】

※行頭の数字はアンケートの項目番号。各項目は継続して経年変化を調査している。

- 1 「南多摩中等教育学校に入学して良かったと思っている」
- 2 「先生は、生徒一人一人の実態を把握して、学力を身に付けさせる授業を行っている」
- 3 「先生は、生徒が主体的に取り組める授業を行っている」
- 4 「先生は、生徒の多面的・多角的な思考力を養う授業を行っている」
 - ・以上4項目は同じ傾向にある。前期生は肯定的回答が今年度増加しており、後期生の肯定的回答はほぼ昨年度と同様である。
 - 前期生の肯定的回答が昨年度減少したため、1年生の入口指導や日常の生活指導を今まで以上に徹底して、規律ある生活からの学習意欲の向上を図ってきたところである。また、新型コロナウイルス感染症対策で行事が実施できなかったことは残念であるが、緊張感を保ったまま継続して生徒が授業に取り組むことにつながった。こうしたことから、学校全体に対する印象や授業に対する評価が一定程度増加したと考えることができる。
 - また、後期生の肯定的回答は、自身の進路を見据えた学習意欲の向上、各種取組による成功体験など豊かな学校生活が継続していると捉えることができる。
 - ただし、前期生・後期生ともに、一定数の否定的回答があることは事実で、こうした生徒に対する学習面のサポートや心のケアを継続していく必要がある。
- 5 「各教科の課題量は適切である」
 - ・前期生・保護者の肯定的回答は減少しており、後期生の肯定的回答はほぼ昨年度と同様である。教職員の肯定的回答は増加している。
 - 課題量については特に肯定的回答が少ないので、拡大学年會等で調整を行うとともに、教科ごとに身に付けさせなければならない学力の情報共有を密に行っていく。前期生は特に低くなっているが、行事がなく授業と課題ばかりという印象の一年であったことも影響を与えていると考えられる。教職員の肯定的回答が増加しているが、オンライン学習と対面学習の融合を図る中で様々工夫を凝らした授業や課題作成が行われていることが表れていると捉えられるが、生徒にとってはまだ慣れないこともあり、戸惑いや負担感が増す一因となっている可能性がある。
- 6 「学校は、暴力やいじめの防止等、安心して学校生活を送れるように取り組んでいる」
- 7 「学校は、体罰や暴言をなくすために積極的に取り組んでいる」
- 8 「生徒は、基本的な生活習慣（ルールやマナーを遵守する態度）が身に付いている」
- 9 「生徒は、身だしなみを整え、あいさつをしている」
- 10 「学校は、生徒一人一人の心の悩みに適切に対応し、解決に向けて努力している」
 - ・以上5項目は、前期生・後期生ともに肯定的回答が増加している。
 - 普段の授業や集会等での意識づけをしっかりと行い、生徒が安心して学校生活を送ることがで

きる環境づくりを一層推進していく。次年度も継続した指導を行っていく必要がある。

項目7について保護者の肯定的回答が9割を超えてはいるが、昨年度より減少している。より明確な取組が求められていると考えるべきである。

項目8及び9について肯定的回答が増加しているが、前期生・後期生ともに9割を切っている。基本的な生活習慣、身だしなみや挨拶については特に注意していく必要がある。

12 「生徒は、手帳や生活時間調査により、自分の時間管理ができている」

・全体的に肯定的回答がまだ低い、前期生・後期生ともに増加している。

→前期課程では、学習時間や生活時間の管理に活用しているノルティ手帳や、定期テスト前の学習計画表作成などで自己管理を行うように指導を継続している。後期課程では、BYODを生かした隙間時間の活用を含め、自主的に計画を立て取り組むように指導をしていることが成果につながっている。また、今年度は部活動や行事が実施できなかったことは残念であるが、毎日の計画を立てやすい状況となったことも影響があると考えられる。

13 「生徒は、目標を高く持ち、目標を達成するために挑戦しようとしている」

14 「学校は、日本文化と外国の文化を理解させる取組を行っている」

15 「学校行事は生徒にとって有意義なものになっている」

・今年度は肯定的回答が減少している。

→新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な活動を行うことができなかったことが影響していると考えられる。しかし、できる範囲の活動を工夫して行ってきたため、一定の肯定的回答は得られている。

18 「生徒は、日頃から読書をしている」

・今まで後期生の肯定的回答が低く課題となっていたが、今年度は増加した。

→前期生は朝読書の時間が確保されている上、図書館司書の指導によるビブリオバトルや国語科の100冊プロジェクト等を行っている成果があがっている。後期生も、朝読書がなくなり、スマートフォンの利用が可能になることで通学中の読書が減少する中ではあるが、今年度は肯定的回答が5割を超えている。

【自由記述から】

1、教卓の亚克力板についての意見

・新型コロナウイルス感染症対策のため必要な措置であるが、光が反射して黒板が見えないという声が多数あがっている。板書に工夫をする等の必要がある。

2、施設関係についての意見

・照明やトイレをはじめ、施設の故障・不備に関しては経営企画室を中心にできるだけ早く対応をする。

3、自治体との連携についての意見

・災害時の避難所となっているがどの程度の準備があるのかわからない、と地域の方の声がある。わかりやすくPRしていく必要がある。

提言

- 1 暴力・いじめや体罰・暴言の防止、心の悩みへの対応などをしっかりと行い、生徒・保護者にとってより一層安心で安全な学校を目指して、分掌・学年等で努力していく。
- 2 手帳やタブレット等を使った時間管理を促し、自立した生活態度、学習意欲のさらなる向上を図る。また、各教科の課題の設定も、成長段階に応じた適切な量となるように調整する。
- 3 地域に対する情報発信をより積極的に行い、今年度は実施が難しかったが、地域を巻き込んだ防災訓練や学校公開、文化祭、成果発表会などで実際の活動を見てもらう。また、FW活動など外に出ていく活動においてもより積極的に地域の方々とコミュニケーションを図る。このような取組を通して、学校に対する理解・関心を高めてもらえるように取り組んでいく。
- 4 挨拶励行・読書習慣の定着に向けて、集会・クラス・授業等、あらゆる場面においてそれぞれ委員会を活性化させ、自治的な取組を深めていくことを継続する。挨拶については、教員から声をかけることも求められている。また、図書館司書の指導による前期生のビブリオバトルへの参加や、国語科の100冊プロジェクトなど、読書に関心を持ってもらう取組を継続して行う。
- 5 働き方改革については、肯定的回答が増加している。今年度は、時差通勤や在宅勤務を継続して実施している。しかし、いじめや保護者対応など定時外に行われている不可欠な業務があり、これがなければ学校運営が成り立たないのが現実である。このような状況ではあるが、一人一人が働き方改革を意識して、少しでも定時外勤務時間の短縮に取り組んでいく。